

山上徹也と日本の「失われた30年」

五野井郁夫 池田香代子

宗教2世の政治学者 × 『100人の村』著者



3月24日(金)発売

定価: 1,760円(10%税込)
 体裁: 四六判/176ページ
 発行: 集英社インターナショナル
 発売: 集英社
 ISBN: 978-4-7976-7427-9

山上徹也の全ツイート1364件を精査
 彼はどんな世界に生きてきたのか——

山上徹也は、2019年10月13日から「silent hill 333」のアカウント名で、ツイッターへの投稿を始めた(2022年7月19日に凍結)。そこから見えてくるのは、家族そして人生を破壊された「宗教2世の逆襲」という表層的な理解にとどまらず、ロスジェネと呼ばれる世代に共通する絶望感、悲壮感であった。山上と同世代で、自身も宗教2世である政治学者・五野井と、『世界がもし100人の村だったら』(マガジンハウス)などの著者・池田が、それぞれの視点からツイートを精査、現代日本の重い問題をあぶり出す。

◎巻末には山上徹也のツイートを抜粋して原文のまま時系列で収録

◎ツイートで山上徹也が言及した映画、本、ゲームなどの作品リスト掲載

●山上徹也のツイート

- 【ジョーカーという真摯な絶望を汚す奴は許さない(2019.10.20)】
- 【オレを殺したのは誰だ(2020.01.18)】
- 【オレが14歳の時、家族は破綻を迎えた(2020.01.26)】
- 【残念ながら氷河期世代は心も氷河期(2021.02.28)】
- 【最後まで生き残るのは搾取上手と恥知らず(2021.12.08)】



五野井郁夫 (ごのい いくお)

政治学者・国際政治学者、高千穂大学経営学部教授。2013年ユーキャン新語・流行語大賞で「ヘイトスピーチ」がランクインした際に顕彰。著書に『「デモ」とは何か 変貌する直接民主主義』(NHK ブックス)など。



池田香代子 (いけだ かよこ)

ドイツ文学翻訳家。著書に『世界がもし100人の村だったら』(マガジンハウス)、翻訳に『夜と霧』(みすず書房)、『ソフィーの世界』(NHK 出版)など。映画『ベルリン・天使の詩』などの字幕も担当。

山上徹也のツイートを抜粋して原文のまま時系列で収録

2年9カ月におよぶ彼の思考と行動の変遷をつぶさにたどる

凝縮した言葉で中学から高校にかけて一身上に起きた出来事を述べた連続ツイートの最初のツイート。連ツイの最後のツイートで山上被告は【祖父は死後も辱められた事になるが、それを知るのはそれから10年後だ。ジョーカーは何故ジョーカーに変貌したのか。何に絶望したのか。何を笑うのか。】と、唐突に映画『ジョーカー』の主人公に自身を重ね、思いを馳せる。

このツイートの1年半ほど前、山上被告は韓鶴子総裁を狙って手製の火炎瓶を携え名古屋に行っている。もしかしたら、火炎瓶の材料を抱えて映画館に入ったのかもしれない。

山上被告は長い年月、統一教会への怒りをもち続け、その最高幹部を襲って統一教会の名前を悪い意味で世に知らしめるという企図を持続させていたのだろう。あるいは、その企図のために火薬や銃の部品を揃えることで、かろうじて精神の均衡を保っていたのかもしれない。ここから1年ほど後に山上被告は手製の拳銃で安倍元首相を殺傷することとなる。

silent hill 333

@333_hill

オレは事件を起こすべきだった。当時話題だったサカキバラのように。それしか救われる道はなかったのだとずっと思っている (2019-12-07)

オレが14歳の時、家族は破綻を迎えた。統一教会の本分は、家族に家族から窃盗・横領・特殊詐欺で巻き上げさせたアガリを全て上納させることだ。70を超えてバブル崩壊に苦しむ祖父は母に怒り狂った、いや絶望したと言う方が正しい。包丁を持ち出したその時だ。 (2020-01-26)

逆だね。優性思想の否定こそが人間の否定。人間性を否定し尽くした純粋な共産主義にしか優性思想のない社会はない。その行き着いた先がポルポト。 (2020-07-25)

オレがJOKERを観たのは鶴子がやって来る前日、名古屋でだった。 (2020-08-12)

ダム沿いの道で小鹿が柵から抜け出せず死んでいた。ほんの少しの手助けがあれば死なずに済んだのだろうか？ (2021-01-18)

1フォロワーしかいない素晴らしき自由 (2021-03-28)

2世の苦しみか。実に下らない。親を殺してニュースになる2世が現れて統一教会の名が出れば許してやろうかとも思うが。 (2021-05-18)

神戸連続児童殺傷事件のあった1997年当時、山上被告は17歳。その頃から引きこもりがちとなり、母に伴われ2カ所の精神科で受診している。

ロスジェネ世代とそれに続く世代は、うまくいかないのは自分のせいだ考える新自由主義の自己責任論や優生思想を内面化しがちだが、山上被告にも同様の思考が見て取れる。

唯一の動物ネタ。おそらく自分で撮ったであろう写真が添えてある。「ほんの少しの手助け」を求めていた子鹿は山上被告自身だったと思わずにいられない。

著名人へのリプライは多いが思想や立場の近い相手との交流は意外と少ないのが山上被告のツイートの特徴。「自由」と言いながら【人が一人では生きられないのも絶対的な事実ではあるが】(2019-11-22)という人恋しさがいまみえるツイートも。

著者への取材や書影データなど、お気軽にお問合せください。

【本書のお問い合わせ先】

編集担当：集英社インターナショナル 出版部

電話 03-5211-2632 <https://shueisha-int.co.jp/>